

最 終 試 験 の 結 果 の 要 旨

神奈川歯科大学大学院歯学研究科 口腔機能成育歯科学講座 大久保 孝一郎 に
対する最終試験は、主査 平 田 幸 夫 教授、副査 荒 川 浩 久 教授、
副査 山 田 良 広 教授により、主論文 ならびに関連事項につき口頭試問を
もって行われた。

その結果、合格と認めた。

主 査 教 授 平 田 幸 夫

副 査 教 授 荒 川 浩 久

副 査 教 授 山 田 良 広

論文審査要旨

大規模災害時における小児への
歯科保健医療支援体制構築に関する研究

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

口腔機能成育歯科学講座 大久保 孝一郎

(指導：木本茂成教授)

主査教授 平田幸夫

副査教授 荒川浩久

副査教授 山田良広

論文審査要旨

学位申請論文の概要は、大規模災害時の災害時要援護者である小児への歯科保健医療支援体制構築に向けた歯科保健医療支援の指針（案）を示すことを目的に、全国 29 大学歯学部及び歯科大学の小児歯科学講座に対して、東日本大震災当時の各講座の状況や行った歯科保健医療支援に関するアンケート調査を行い、得られた回答について診療への影響や支援の内容を分析・検討したものである。その結果、申請論文では、講座ごとに支援の内容や方法に関する判断が委ねられていたことから迅速な被災地支援や、支援自体が行えなかったなどの問題が示され、全国 29 大学小児歯科学講座で運用可能な小児の口腔保健に関する支援システムの案を提示している。

これまでの研究においては、災害時要援護者である高齢者や障害者などを対象とした観点から検討したものが多かったが、同じ災害時要援護者である小児に対する観点から検討したものは少なく、地域社会への貢献も視野に入れた着眼点は多いに評価できる。また研究の倫理性も十分配慮され、本学研究倫理審査委員会の承認のもと適切に実施されたものであると評価した。

研究方法については、調査内容のうち「計画停電の影響の有無」、「保護者からの相談の有無」、「保護者からの要望の有無」、「医療従事者からみた患児の変化・動揺の有無」、「被災地への口腔ケア用品提供の有無」、「被災地での歯科保健医療支援参加の有無」についてそれぞれ集計し「東日本大震災当時の診療に対する影響の有無」ごとに χ^2 検定を行った。

分析結果より「計画停電」は診療に対して大きな影響を与えていたことが判明した。しかし、「保護者からの相談」、「保護者からの要望」、「医療従事者からみた患児の変化・動揺」、「被災地への口腔ケア用品提供」、「被災地での歯科保健医療支援参加」の有無は「東日本大震災当時の診療に対する影響の有無」との有意な関係性は認められなかった。これらの結果から、申請者は被災地域に必要な支援と支援を行う組織の対応との乖離に着目し、考察の内容に帰結している。

申請論文では大学の小児歯科学講座が大規模災害時の小児の歯科保健医療支援・活動の拠点として機能し、迅速な支援を可能にするために、共通して運用可能な小児に特化した災害時歯科保健医療支援体制が必要であることが示された。また、災害時に小児の口腔機能の育成を妨げない為にも、大学が歯科医療を通じて小児の健康維持に関わることの意義が強調された。

審査時の質疑応答では、診療に影響の無かった講座の内、口腔ケア用品の提供や、被災地での歯科保健医療支援が行われなかった講座が少なからず見受けられた結果に関して質問された。各講座が限られた情報の中、独自の対応を迫られていたこと、災害対応マニュアルが実践的なものではなく対応に苦慮していた、想定外の規模だったとの自由記載項目から多くの小児歯科学講座が共通運用可能なマニュアルの必要性について説明があった。また行われた歯科保健医療活動の内容に「大人へのブラッシング指導」、「義歯清掃指導」などの直接小児と結びつかない内容が多く見受けられた点に関する質問に対して、避難所などでは小児だけでなく、その家族を含めた包括的な支援内容の検討が必要であるとの展望が示された。本審査委員会は、論文内容および関連項目に関して、口頭試問を行ったところ十分な回答を得られることを確認した。申請論文は今後予想される大規模災害時の歯科保健医療研究における礎になることが期待できるとの結論に至った。以上の結果、本審査委員会は申請者が博士（歯学）の学位に十分値するものと認めた。